

予算審査特別委員会（病院）

日 時 平成28年3月10日（木）

午前9時40分～午前10時05分

場 所 議会棟 議場

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：なし）

説明員 中曽病院事業管理者、古井病院事務部長、長崎事務次長

書 記 川上主任、岩崎事務局長

○山本委員長 会議を再開します。これからは日南病院について審査を行います。それでは説明を求めます。中曽管理者。

○中曽事業管理者 おはようございます。28年度病院会計予算につきまして、説明員として私のほか、古井事務部長、長崎次長の3名で説明させていただきたいと思えます。最初に部長の方からご説明申し上げます。

○山本委員長 古井事務部長。

○古井事務部長 失礼いたします。それでは、お手元の28年度日南病院事業会計予算書の方をご覧になっていただきたいと思えます。では表紙からでございますけども、第2条、ここは業務の予定量を示しております。病床数については、99床で前年から変更はありません。年間患者数、入院を2万2,100人、外来を2万8,402人と一日当たりそれぞれ65.1人、116人としております。次に、第3条、収益的収入及び支出でございますが、病院事業の収益、費用とも11億2,497万円で、昨年度比503万2,000円の増としております。収益においては、医業収益を7億6,597万9,000円、昨年度比1,641万6,000円の増としています。これは、主に入院収益の増を見込んでいるものでございます。医業外収益は、2億4,241万1,000円で、96万7,000円の増、介護サービス収益は、1億1,656万7,000円で、1,235万1,000円の減となっています。27年度の実績をもとに推計した患者数単価で計上しているところでございます。一方、費用においては、医業費用を11億212万6,000円、昨年度比883万1,000円の増、医業外費用は、2,254万4,000円で379万9,000円の減、予備費は30万としております。医療費用の内訳でございますが、給与費が約7億4,000万弱、材料費が約9,400万円、経費が約1億6,000万円となっています。細かい項目につきましては、22ページ以降の見積

書をご覧いただきたいと思います。また、給与費については、6ページ以降から掲載をしております。続いて、予算書表紙の次のページ、はぐっていただきたいと思いません。第4条でございますが、資本的収入及び支出についての説明でございます。まず収入ですが、補助金が378万で、昨年度比3,892万円の減です。施設更新にあてる国庫交付金が皆減となっているためでございます。企業債は、過疎債と機械備品整備債、あわせて790万円で、2,520万円の減となっております。長期貸付返還金は20万円で70万円の減です。次に支出ですが、建設改良費は3,068万1,000円で、昨年と比べますと7,064万1,000円の減です。減少要因の大きなものとしては、27年度電子カルテシステムの更新で7,000万というものを要していたためです。これが皆減となっております。企業債償還金が1億1,101万6,000円で、973万1,000円の増です。貸付金は資格取得資金3名分、180万円と就職支度金5名分500万円、計680万円を27年度に引き続きお願いいたします。なお、収入見込み額に対して支出見込み額の差、不足する額1億3,661万7,000円は過年度における総益勘定留保資金で補填としています。この資本的収支において、おもな事業について説明いたします。本館ボイラー更新に280万8,000円、医療機器購入で薬剤科の錠剤分包機に421万2,000円、放射線科のデジタルラジオグラフィーに756万といったところが高額なところです。明細につきましては、31ページに付いておりますのでご覧になっていただきたいと思います。この医療機器の更新には、だいたい計画的に極力、国、県の財源や過疎債などを活用して対応していきたいと考えております。以上、かいつまんでではございますけども、日南町病院事業の会計予算の説明とさせていただきます。

○山本委員長　　ただいま説明された日南町病院事業会計について、質疑意見ありませんか。久代委員。

○久代副委員長　　まず、国の診療報酬の改定ですよね、今年、新年度。これが病院の事業に及ぼす影響、これはすべての病院に関係する問題ですけども、それをどのように今、考えておられますか。診療報酬の大幅改定ですけども。

○山本委員長　　長崎次長。

○長崎次長　　今年度、診療報酬改定につきましては、ちょっとまだ試算が途中ではございますが、大きく影響するものは少ないというふうに考えております。今後、新規で届け出をできるもの等の検討をして、届け出をしていきたいというふうに思っております。

○山本委員長 久代委員。

○久代副委員長 大きく影響を受けることは考えられないというふうな答弁だったけども、実際にはその中身を見ると、すべて私は影響があるというふうに思いますけども、事業管理者、事業部長、どのように見ておられますか。この診療報酬の改定の影響。改革プランの中では、診療報酬の改定そのものには踏み込んで記述がなかったように思いますけども、先程説明のあった。ただし、やっぱり病院経営全体に及ぼす影響は大きいというふうに私は思ってますけども、どうでしょうか。

○山本委員長 中曾管理者。

○中曾事業管理者 全体として減額傾向にもなりますし、単価の面では、またここに、一つ一つの医療行為について漸減するようなものもあると思いますが、まだ、数字的に集計はできておりませんが、基本的に全体的な話になりますが、以前にも議会の方にもご説明させていただきました医療病床転換とかですね、そういったところに向けて、平成30年度の改定が今一番注目されておまして、その年が医療介護のダブル改定ということで、医療の世界の方ではその時に大きな改定があるんだろうという。全体的なイメージとしては、そういう思いであります。今回は、専門的な話になりますが、医療介護度の算定の方式が変わったりとか、若干技術的な内容の改定が多いのかなという印象がしております。

○山本委員長 久代委員。

○久代副委員長 それと、先般常任委員会で説明のあった改革プランの事との関連もありますが、依然として医師、看護師等のスタッフが確保できていない状況であるという、この過疎計画の中にそのことが書いてあります。そのことも含めて、自治体病院、日南病院としてのビジョンが実際に町民にとって大事な医療機関、町民にとっての中核病院ですよね、他に病院がないわけだから、本当に町民に信頼され、そしていつでもどこでも困った時には日南病院で受診するとそういう体制のために、まず何としてもスタッフの確保が一番で、より信頼される体制を作っていくためにもこの本会議の中でも私もいいましたけども、今町民が求めている医療に対して、ニーズに対して本当に答えられているのかということの本気になって検討されて行かれる必要があるんじゃないかというふうに思います。特に、少子化の中で、やっぱり小児科医の問題、それから、逆に高齢化の中で、発症率の高い整形の問題、やっぱりそういうことを総合的に隣の日野病院なんかとの連携も含めて、抜本的に強めていかないと何かあ

ったら下の病院に行かなくてはいけないということではなくて、本当に安心して地元の自治体病院にかかれるという体制を本気になってやっぱり構築していく必要があるというふうに、全体を見て思います。絶対数が減っている中で、確かに患者数も減るといふ傾向はあるかもしれないけども、やっぱり現実には小児科では常勤医がいなくなっから激減しているということも踏まえて、やっぱりそういうことにまず答えて行ける病院でなくては、他の部分の患者も減っていくという傾向になるので、その対策を抜本的に強めていただきたいというふうに思いますが、事業管理者もおられますので、その点についての考え方を示して下さい。

○山本委員長 中曾事業管理者。

○中曾事業管理者 日南病院のよって立つ基盤は、町民の医療に関わる要望に一番大事なところに答えていくと、これが出発点でございますので、小児科、整形外科の件も大事な課題だと思っております。今後とも、色んな方法を使って確保に努めて参りたいと思っております。それと、冒頭にありました医師、看護師の不足という表現をしてしまうんですが、人数とすれば、医師、看護師も今の医療法上の基準はクリアをしておりますが、もうちょっと詳しい中身をいいますと、日南病院の病院自身の先生が今2名いらっしゃいます。そのほかの先生は常勤ではございますが、自治医科大学大学卒業であったり、鳥大からの派遣という形になっております。そういう中で、常勤の先生も日南病院の先生も先頭に立って頑張らせていただいておりますが、医師不足ということの中には、やっぱり次の世代の日南病院の先生を確保したいという、そこも大事な点だと思っております。看護師についてですが、看護師も一応今、一般病棟の10対1という基準を取って居るんですが、何とか今ギリギリ舞えておるということで、クリアしている状況であります。その中身を見ますと職員の高齢化が進んでおまして、50代前半に集中しておるという状況がございますので、将来を見据えて若い人材を確保したいと、そういう側面がとりわけ看護師部門については、大事なところだというふうに思っておるところです。以上です。

○山本委員長 そのほかありますか。ないようでしたら、過疎地域自立促進計画について、質疑、意見がありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長 全体を通して質疑漏れがありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長　　ないようでしたら、これで日南病院の審査を終了します。職員の皆様ありがとうございました。御苦勞様でした。日南病院について特に意見を付したいということがありますか。久代委員。

○久代副委員長　　事業部長も答弁で言っておられましたが、本会議の時に、要するに住民のアンケートをとって広くディスカッションできる、そういうことをやっぱり今年度中に改革プランを、一応あれは書類でして、広く町民に共有もされていない面があるんです。本当に日南病院のあり方をやっぱりみんな考えてもらう、町民みんなに。ということ予算にはないわけだけでも、ぜひとも検討してもらいたい。それは、議会としてそういうことを執行部に求めていきたいというふうに思いますが、どうでしょうか。

○山本委員長　　ただいまの意見について何かありますか。久代委員。

○久代副委員長　　いろいろ自治体病院として全国のいろんな大会で表彰されたり、先般赤ひげ大賞で高見先生が表彰されたりされましたけども、そういう行政が行う大会がいろいろあったんですよ、これまでも、私たちも参加しましたけど。やっぱり町民が本当にかかりやすい病院としてのニーズもよく聞き取って、対策を練っていかないといけないじゃないかなというふうに思ってますんで、是非ともそういうことを議会としても考えていきたいし、執行部の方にも検討してもらいたいということです。

○山本委員長　　意見としますと、執行部の方にアンケートの実施を検討して欲しいということにするわけですか。荒木委員。

○荒木委員　　私もあまり病院にはちょっと伺ってないので、なんか普通窓口とかどっかに意見を入れる箱があると思うんですよ。もしくはまとめた資料があれば、それもちょっと見てみたいというふうに思いますが。たぶんアンケートとか、あかねにもありましたけども、病院にもあると思う。もしあればその資料のまとめたものがちょっと見てみたいと思いますので、それも意見に添えていただきたいと思います。

○山本委員長　　資料としてお願いをするのと意見とは違うと思いますが。

○荒木委員　　資料として提出していただきたいと思います。

○山本委員長　　提出できるものかどうか検討させていただいて。

○荒木委員　　あれば。

○山本委員長　　あればですか、はい。基本的には、回答を病院の掲示板といいますか出されていると思いますので、意見については。出せるものは出していただけると

は思います。協議をしたいと思います。そのほかありますか。坪倉委員。

○坪倉委員 2名の意見があったんですけども、利用者の声というのは、公表はできると思います。例えば、県は、県民の声ということで、全てホームページに県民の意見と県の回答と対応とすべてオープンにされておりますので、病院としてできないことはないと思いますが。それとですね、今、山本委員長の方からもアンケートの実施ということを求めるというふうに言われましたけども、それだけじゃなくて、やっぱり日南病院の利用者が少しずつ減っています。それは大きな減少ではないんですけども、その中であって町内と町外と分けると町内の利用者の割合が高くなってきてます。管理者も言われるように、町民に信頼される病院でなければいけないということから考えますと、やっぱり潜在的に町民の中に日南病院に対する不満であったり、不安というのもあるというふうに聞いておりました、そういったところも含めて町民の意見を病院が直接聞く、我々の立場としてもそうですけども、病院が直接聞くというようなシンポジウムのもの、アンケートだけじゃなくて、逆に病院から情報発信という意味も含めて、そういったものをぜひ展開をして病院と町民との距離感を詰めるような活動をお願いをしたいと思います。

○久代副委員長 異議なし。

○山本委員長 異議なしということはですね、久代委員、先程アンケートの実施ということでありましたが、アンケートの実施という事ではなくて、先程坪倉委員が言われた意見。久代委員。

○久代副委員長 今、同僚委員がうまくまとめられましたように、単なるアンケートを実施するだけじゃなくて、それに基づいて、町民の要求アンケートいろいろ記述されたりするわけですよ、アンケートに。それをやっぱりきっちり分析する中で、どうあるべきかということをお皆さんが広く議論する、いわゆるシンポジウムのことを開いて欲しいということです。

○山本委員長 前段でアンケートを実施したあとの取り組みとして、シンポジウムをということですか。

○久代副委員長 はい。より町民の皆さんにこういう病院であって欲しいということがやっぱり一つの大きな目標として、達成できるような前向きなそういうシンポジウムを含めて企画をしていくべきだと。より関心を持っていただくということも含めて、そういうことを企画してはどうかという提案です。

○山本委員長　　坪倉委員の意見はアンケートをする前提ではなかったように受け取ったんですが。どっちでもよろしいですか。恵比奈委員。

○恵比奈委員　　具体的に、ただアンケートを実施して欲しいとか言うことじゃなくて、手法はいろいろあると思うんですよ。だから坪倉委員が言われたように、病院と町民との距離を縮める方策の一つとして、アンケートを実施したり、病院を利用しない人の町民全体の意見を聴くなどして、言われました情報発信も含めてという、そういうふうにつなげていけばいい文章と意見になると思います。

○山本委員長　　素晴らしい意見をいただきましたので、例えばアンケートを実施するなどしてという。シンポジウムというところがかなりの重点的な主眼であるということですね。では、副委員長の手腕に。その他ございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長　　そうしますと、ここで暫時休憩とします。再開は午後1時からとします。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成　　年　　月　　日

委員長

副委員長